万国の労働者団結せよ！　万国の労働者と被抑圧民族団結せよ！

（毎月２回１日・15日発行）1969年12月20日第３種郵便物認可

2018-9-1
No.1028
250円

思想運動

活動家集団 思想運動
発行・小川町企画　〒113-0033 東京都文京区本郷３の29の10　飯島ビル１階　☎03・3818・6671 FAX03・3818・3199（郵便振替）00190-0-758235
小川町企画・関西連絡先 ☎080・4700・6461
HP http://www.shiso-undo.jp/
購読料：年間6,000円 半年3,000円（送料共）

おもな内容

◇沖縄◇翁長知事の遺志を継ぎ辺野古新基地建設を阻止しよう！（東京・福岡・大阪）…２・３面
◇沖縄◇捜査の闇を隠蔽する「オウム」死刑囚一斉処刑（山口正紀）……３面
◇国際◇朝米共同声明の履行を阻むもの（李東埼）／ASEAN会議の李容浩朝鮮外相の演説　…４面
◇朝鮮◇友のウリナラ――二度目の訪朝を終えて（堀川久司）……５面
◇婦人◇第六回日本軍「慰安婦」メモリアルデー／津久井やまゆり事件に思う（森理子）……６面
◇文化◇HOWS講座『日本ナショナリズムの歴史』に参加して／書評『原発被ばく労災』…８面

翁長さんの遺志を引き継ぎ基地建設を阻止する！
沖縄県民大会に呼応する首都圏行動で沖縄知事の遺影を掲げてデモ行進する参加者たち（八月十一日東京・池袋　関連記事二・三面　撮影＝Shinya）

辺野古の埋立て承認「撤回」支持！
政府の恫喝と工事強行を許さない

八月十一日、沖縄県那覇市の奥武山陸上競技場で「土砂投入を許さない！ジュゴン・サンゴを守り、辺野古新基地建設断念を求める県民大会」がオール沖縄会議の主催で開催され、雨にもかかわらず七万人の人びとが参加した。八日に膵臓がんで亡くなった翁長雄志沖縄県知事の追悼も行なわれた。そして全国二五か所で、県民大会に連帯する集会や行動が取り組まれた。

翁長知事は七月二十七日に辺野古埋め立て承認撤回を表明したあと、三十日に入院し、ベッドでも資料を読み、八月六日には沖縄防衛局に対し埋め立て承認撤回の「聴聞」時期の延期を認めない旨の文書を病室で決裁したということだ。亡くなる直前まで辺野古新基地建設阻止のために闘い抜いたことに頭の下がる思いだ。改めて心から哀悼の気持ちを送りたい。

普天間基地の辺野古移設に反対し、二〇一四年十一月の県知事選挙で現職だった仲井眞知事に一〇万票差で勝った翁長知事は、一五年十月十三日に仲井眞知事による辺野古の埋め立て承認を取り消した。それに対して防衛省沖縄防衛局はただちに国民の救済を目的とする行政不服審査法を悪用して私人になりすまし、国交相に不服審査請求を行ない、承認取り消しの効力停止を申し立てた。いわば身内の国交相が承認取り消しの効力停止を決定し、政府の閣議決定を経て代執行訴訟を起こした。それと前後して政府は埋め立て工事に着手し、キャンプシュワブに警視庁機動隊を大量派遣した。沖縄県は執行停止を不服として国地方係争委員会に審査を申し出たが却下され、国交相の執行停止取り消しを求める抗告訴訟を提起した。

代執行訴訟で裁判長は国と県に和解を勧告したが、「和解」は名ばかりだった。国は埋め立て工事をいったん中止して代執行訴訟を取り下げ、県は抗告訴訟を取り下げて、協議を進めることで合意した。しかし国はすぐに承認取り消しを違法とする是正指示を県に出し、そのため県はこれを違法として係争委に審査を申し出た。係争委は是正指示の適法・違法を判断せず、国交相は是正指示に従わないことを違法として不作為の違法確認訴訟で知事を訴えた。高裁は知事の承認取り消しを違法と断定し、県敗訴の判決を下した。県は最高裁に上告したが棄却され、二〇一六年十二月に県側の全面敗訴が確定した。

非常に困難な裁判闘争であったにもかかわらず、八月三十一日、沖縄県はこんどは埋め立て承認後の工事の違法性や問題点を根拠に承認を「撤回」し、工事を停止させた。これは翁長知事とともに闘い抜いてきた沖縄の人びとの勝利だ。八月十七日と予告されていた土砂投入は、悪天候を口実に延期となったが、多くの人が指摘する通り、翁長知事が亡くなり、九月三十日に繰り上げとなった県知事選で辺野古新基地建設が争点となるのを安倍政権が恐れてのことだろう。小野寺防衛相は撤回にたいして法的措置に出るとしており、裁判所に執行停止を申し立てることが予想される。また昨年三月、翁長知事が「撤回」を明言したのをうけ、菅官房長官は「行政の長が権限の乱用をすれば違法」とし損害賠償請求を含めた法的措置を取ると言ったが、沖縄防衛局も撤回で民間業者との契約が解除となれば損害賠償が必要、と「聴聞」で沖縄県を恫喝し、その額は一日約二〇〇〇万円とも言われている。安倍政権はこれまで通り基地建設を強行するつもりだろうが、断固許してはならない。

翁長知事は保守の政治家で元自民党であり、日米安保を容認していたが、辺野古に恒久基地ができれば本土の基地同様に国有地となり、沖縄で唯一県民の口出しできない基地ができてしまうことや、集団安全保障の法制化により米軍と自衛隊との共同使用が現実味を帯び、尖閣諸島を理由にした自衛隊の強化と合わせて明らかに沖縄の基地負担が増加することを見抜いていた（『戦う民意』）。「イデオロギーよりアイデンティティ」を訴え、沖縄の人たちの心をひとつにして基地をなくし平和で豊かな未来を築くために行動し、沖縄の人びとの苦難と闘いの歴史を県内外・世界に丁寧に伝えた。日米安保と米軍基地問題は日本全体の問題であり、民主主義と自治の根幹にかかわる問題だという訴えは、政府だけでなく本土に住むわれわれにも向けられたものだ。自民党総裁選が未来を決するかのような報道が垂れ流される現実に抗し、来る知事選では、翁長知事の遺志を継ぐ候補を全力で支援して、沖縄の人びとともに新基地建設を阻止しよう。

【日向よう子】

翁長さんが八月八日に亡くなられたことを、痛恨の思いで受け止めている。

九月三十日に沖縄県知事選挙を控えているが、翁長さんの後継者として、玉城デニー氏をオール沖縄サイドでは決定している。わたしたちは、翁長知事が命をかけた辺野古撤回の政策を玉城氏に絶対に貫徹していただきたいし、そのためにもぜひとも当選を実現するという任務がある。

今度の知事選については、オール沖縄の一部、いわゆる経済界の保守系がこれから離脱したような形になっている。安倍自公政権は、この辺野古問題を含めて、沖縄そのものを何がなんでも自分たちの支配下に押し込もうと全力をあげている。以前から表立ってだけではなく、裏でも徹底的に選挙の布石を打ってきている。わたしたちはいま、翁長さんの遺志を継ぎ、玉城氏を知事として実現させるために、たいへんな努力を要求されている状況にある。

去る八月十一日に開催された「土砂投入を許さない！　ジュゴン・サンゴを守り、辺野古新基地建設断念を求める8・11県民大会」には雨のなか七万人が結集し、わたしも参加した。なんとしても翁長知事の遺志を引き継ぐという決意が会場に溢れていて、歴史的な集会だった。

わたしは、こういう状況を踏まえると、辺野古・高江の闘いは決して後退することなく、より強固な闘いに構築されていくことは間違いないとみている。

それがゆえに、いま安倍自公政権は沖縄を徹底的に支配下化されていくことになる。それは眼に見えている。そうは絶対にさせない。沖縄の民衆は、一人ひとりがそういう思いで、いま闘っている。

「本土」ということが言われるが、わたしはこの「本土」という言葉は好きではない。「本土」というとき、それには「外地」が対置される。「本土」という言葉自体を、単なる地理的な意味だけでなく、そこには沖縄差別が込められてきたものとして受けとる。だから、わたしたちは「ヤマトの人」と言っている。

わたしは「ヤマトの人」というとき、同じ同胞という意味で使っている。「ヤマトの人」と「ウチナーの人」の共闘という意味で、いま沖縄では使っている。

そういう意味においても、辺野古・高江をはじめとした沖縄の基地の問題は、沖縄の問題ではなくて、本来ヤマトの皆さんの問題である。アメリカと戦争を終えて七三年、あなた方は日本国家の主権をもつ日本人として誇りをもって生きてきたのか、ということを問いたい。沖縄に基地を押しつけ、自分たちは日米対等と思い込んでいるようだが、実はアメリカに相変わらず主権を支配されている。要するに日本国憲法なき日米安保優先の日本国家だ。そのことをきちんと認識してもらいたい。

米軍は十月に横田基地にオスプレイを配備することを決定した。そうなれば、いつ東京の真ん中にオスプレイが墜落するかもわからない。沖縄と同じ危険な状態のなかでの生活を強制されていくことになる。東京の皆さんも基地の問題は決して他人事ではなく、北から南まで米軍が自由に使える日本のあり様を肌で感じるようになるだろう。そこから本当の共闘が生まれてくることを、わたしは期待している。

（談）

翁長知事の遺志引き継ぎ反基地闘争をつづける
ウチナーとヤマトの真の共闘を！
池宮城紀夫さん（弁護士・辺野古埋立反対弁護団）に聞く